

2018年度 学生参画型実学・実践教育、協働連携事業および共同研究実績

協働・連携【教員】	11件
協働・連携【学生参画】（再掲1件含）	34件
卒業研究・ゼミ活動（再掲2件含）	50件
地域プロジェクト演習（再掲1件含）	2件
デザインコンペ	7件
ボランティア活動	10件
復興支援のための活動（再掲2件含）	5件
その他	1件
合計（のべ）	120件

【協働・連携】※地域関連機関（産官民学）との協働・連携事業・共同研究（教員）

（11件）

学科	連携先	テーマ	概要	担当教員
産業情報 学科 (経営情報)	会津若松市立一箕 小学校	小学生向けプログラ ミング教育	2020年の小学校におけるプログラミング教育必修化に向けて、具体的な実施方法や授業モデルの検討・策定をし、また教員のプログラミングスキル向上のための研修や助言を行い、Scratch, ロボットカー, ドローンなどを使った多様なプログラミングの授業の実現を実現した。	中澤真
	喜多方市	市民アンケートの 調査手法に関する 助言	本学非常勤講師である林隆史先生（新潟大学教授）とともに、喜多方市が毎年実施している市民アンケートの調査方法について改善の助言を行った。	青木孝弘
	会津大学	ICTフレームワーク を用いたグローバル ブランディング 戦略—地方創成・復興 のためのデータ 解析と構築—	2017年度に関わった4つのプロジェクトの成果に関する報告書の作成と、情報発信の程度や性質についての分析を行った。その中でもブランディングに関する理論や概念の検討、グリーンツーリズムに関する報告を担当した。 *井波教授・青木准教授・横尾准教授・会津大学川口准教授と共同	八木橋彰
産業情報 学科 (デザイン情報)	会津若松市教育委 員会	あいづまちなかア ートプロジェクト	総合アドバイザーとして、アートプロジェクト全般の企画指導にあたった。また、漆を学ぶ全国11の大学と連携を図り、現地研修プログラム（真夏の漆塾）の検討、各大学・作家の作品展示、ワークショップの開催、オリジナル漆小法師の制作等各企画の提案と設営準備、運営に携わった。	井波純
	会津若松市教育委 員会	第30回会津若松 市鶴ヶ城ハーフマ ラソン大会のポス ターデザイン	会津若松市教育委員会からの依頼で、第30回会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソン大会のデザインアドバイザーを務め、主に大会ポスターをデザインした。	高橋延昌

産業情報 学科 (デザイン情報)	株式会社社会津嶺の里	道の駅ばんだいの バナーデザイン	磐梯町にある株式会社社会津嶺の里（社長：磐梯町町長）からの依頼で、道の駅ばんだいにおける特産品販売のバナーをデザインした。	高橋延昌
	福島県生活交通課・ 食物栄養学科鈴木 ゼミ・奥会津観光	JR 只見線食育弁当 のパッケージデザ イン	福島県生活交通課が企画、食物栄養学科鈴木ゼミがレシピ考案、奥会津観光が調理提供した「JR 只見線食育弁当」のパッケージデザインを高橋が担当した。なお、パッケージデザインは前年度のゼミ学生がデザインしたポスターデザインを一部流用した。	
	会津若松市水道部	「會津水カフェ フェスティバル」ポ スターデザイン	7月16日に開催された「會津水カフェフェスティバル」開催にあたってポスターをデザインした。	
	楽天・日産・ズー ティー・会津大学	移動洋服店スタイ リングカーの実証 実験（実施協力）	楽天・日産・ズーティー・会津大学が共同開発した「移動洋服店スタイリングカー」の会津若松市内実証実験について、短大教員（青木・八木橋・高橋）が実施に協力した。	
	山庄商店・NPO 法人 わ	「桜峠のハニーワ イン」ラベルデザ イン	山庄商店およびNPO 法人わからの依頼で、北塩原村のふるさと納税返礼品としての蜂蜜酒「桜峠のハニーワイン」のラベルをデザインした。	
食物栄養 学科	福島県	健康長寿のための 減塩&野菜を食べ よう大作戦「食生 活スクリーニング ツール作成業務」	H28 福島県食行動実態把握調査結果をもとに、福島県民の実態に即した食生活スクリーニングツールを開発した。	鈴木秀子

【協働・連携(学生参画)】※地域関連機関(産官民学)との協働・連携事業・共同研究で学生が参加しているもの (34件)

学科	連携先	テーマ	概要	担当 教員
産業情報 学科 (経営情報)	会津若松市三地域 づくり委員会	会津若松市三地域 づくりワーク ショップキャラ バン参加	会津若松市の北会津、河東、湊の地域づくり委員会のワークショップキャラバンに学生と数次にわたって参加し、地域の問題を発掘し、まとめ、発表した。	石光真 青木孝弘
	会津若松市立一箕小 学校	【再掲】 小学生向けプロ gramming教育	小学校におけるプログラミング教育実践において、ドローンを使ったプログラミング授業などの準備やサポートスタッフとして学生が参画した。	中澤真
	会津若松市水道局	會津水カフェ フェスティバルの 企画実施	会津若松市の水道事業に対する市民の意識向上を目的に、地域プロジェクト演習として短大生40名が取組んだ。渡部琢也先生、葉山亮三先生、水尾和雅先生との共同研究。	青木孝弘
	会津若松市広聴課	広報あいづわか まつ12月号特集	まちなか歩きをテーマにした同特集にゼミ生6名が取材協力し、福島県市町村広報コンクールで特選(第1位)に貢献した。	
	湊地区地域づくり 協議会	第2期地域づくり 計画策定の支援	ゼミ1年生9名が、もちそば祭りやArt in Life事業など活動支援を行いながら、同計画の作成プロセスに関与した。	
	会津若松市教育委 員会	漆小法師の制作 (あいづまちな かアートプロジ	本学の呼びかけで、沖縄県立芸術大学、富山大学、京都市立芸術大学、広島市立大学、東北芸術工科大学が参加し、教員学生が協力して限定100	井波純

		エクト)	個の漆起き上がり小法師を制作した。	
	JR 只見線交流事業 実行委員会	JR 只見線ブライ ダルトレイン (デ ザイン担当)	JR 東日本路線として初めて運行した「JR 只見線 ブライダルトレイン」について、教員によるコー ディネートの下、各種デザインはゼミ学生が担 当した。当日は地域住民と連携しながら、イベン トを盛り上げた。	
	会津乗合自動車	路線バスのラッ ピングデザイン	会津乗合自動車 (会津バス) からの依頼で、教員 によるコーディネートの下、ゼミ学生が只見線 カラーによる路線バスをラッピングデザインし た。路線バスは 2018 年 8 月から 2019 年 2 月ま で運行。	
産業情報 学科 (デザイン情報)	公益財団法人野口 英世記念会	野口英世トリッ クアート	猪苗代町の公益財団法人野口英世記念会から野 口英世没 90 周年記念事業について依頼があり、 教員によるコーディネートの下、結果としてトリ ックアートを学生がデザインし、2018 年 8 月 から 2019 年春まで設置。	高橋延昌
	会津若松市教育委 員会	あいづっこ宣言 PR デザイン	会津若松市教育委員会からの依頼により、「あい づっこ宣言」啓発について調査および PR デザイ ンを実施。教員によるコーディネートの下、学生 による最終成果物は 2019 年 4 月発表。	
	会津若松市水道部	水道 PR キャラク ターデザイン	会津若松市水道部からの依頼により、会津若松 市の水道 PR キャラクターのデザインを実施。教 員によるコーディネートの下、学生による最終 成果物は 2019 年夏発表予定。	
	会津青年会議所	会津絵ろうそくま つり地上絵のデザ インおよび設置	会津青年会議所からの依頼により 2 月開催「第 20 回会津絵ろうそくまつり本丸企画・地上絵」デザ インおよび設置をおこなった。	
	喜多方市教育委員 会、喜多方市立山都 小学校	機能性伝統食材 を活用した体脂 肪改善の体験活 動と健康増進リ ーダー育成	伝統食材の機能性を活用した学校給食メニュー の開発・提供、および学童自らが自身の体脂肪、 日常活動量などを測定する体験活動を通じて、 体脂肪改善の意義を理解し、その実践法を習得 することに対して支援を行った。	左一八
食物栄養 学科	いきいきふれあい 合宿事業実行委員 会 (福島市)	少子高齢化時代 における地域の 子育て支援につ いて	合宿事業期間中の子どもたちの生活及び学習支 援、子どもとの交流を行う。また、このような活 動を通して、学生がコミュニケーション能力や 小集団調理の技術を身に付ける。	鈴木秀子
	・福島県庁生活環境 部生活交通課 ・有限会社河内屋商 店 (奥会津観光)	JR 只見線学習列 車食育弁当の提 案	JR 只見線の利活用の促進を目的とした、JR 只見 線学習列車食育弁当のメニューの開発を行った。 併せて、弁当の栄養価表示と列車内で活用で きる食育媒体の作成をした。また、実際に学習列 車に同乗し、弁当を食べた子どもたちにアンケ ートを実施、調理員の方々に向けてはインタビ ュー調査を実施し、評価検討した。	鈴木秀子 舟木乃里恵
	・チャレンジふくし ま県民運動協議会 ・会津大学学生食堂	チャレンジふく しま県民運動推 進事業「県内大学	会津地域の大学食堂、一般飲食店等の 3 施設を 対象に、ヘルシーメニューの開発を行った。併せ て、実際にヘルシーメニューを提供するととも	鈴木秀子 小林未希 舟木乃里恵

食物栄養 学科	・若松ガス(株) ・キッチンほっとほ っと	と連携した広報・ PR 事業」	に、喫食者に対してアンケートを実施し、評価検 討した。	
	会津若松市水道部	會津水カフェフ ェスティバル	会津若松市の水道水のおいしさと品質をPRするた めのメニュー考案のサポートを行った。当日、本学 学生が考案したメニュー(ゼリー)を調理し、販売 等を行った。	水尾和雅
幼児教育 学科	福島県教育委員会	スクールソーシャ ルワーカー派遣事 業	福島県教育委員会からスクールソーシャルワー カー派遣事業におけるスーパーバイザーの委嘱を受 け、年間を通してソーシャルワーカーのスーパービ ジョンを実施している。	木村淳也
	本宮市教育委員会	スクールソーシャ ルワーカー派遣事 業	本宮市教育委員会からスクールソーシャルワー カー派遣事業におけるスーパーバイザーの委嘱を受 け、年間を通してソーシャルワーカーのスーパービ ジョンを実施している。	
	福島県教育委員会	生徒指導アドバイ ザー派遣事業	福島県教育委員会から生徒指導アドバイザー派遣 事業におけるアドバイザーの委嘱を受け、必要に応 じ学校に対する助言指導を実施している。	
	会津若松市水道部	會津水カフェフ ェスティバル	水に関するオリジナルの紙芝居を作成し、絵本とあ わせて、読み聞かせを3回実施した。	渡部琢也
	社会福祉法人啓和 会	造形ワークショ ップ「ぼんぼんづ くり」	5/27、喜多方市駅前公益事業施設エーコードに て造形ワークショップ「ぼんぼんづくり」をゼミ 学生とともに実施した。幼児から大人まで、参加 者は毛糸を材料に、簡易にできる毛糸玉から、動 物等を制作した。	葉山亮三
	会津若松市水道部	會津水カフェフ ェスティバル	7/16、会津若松市駅前公園にて開催された會津 水カフェフェスティバルに合わせて、造形ワー クショップ「アクアリウムをつくろう」を実施 し、80名が作成した。また空間づくりとしてイ ンスタレーション「色水づくり」を実施し空間を 色水で彩った。	
	福島県会津自然の 家	造形ワークショ ップ「星を使った ワークショップ」	7/21、河沼郡会津自然の家にて開催されたザ・マ ーズキャンプの一環として小学生を対象に造形 ワークショップを実施した。透明ビニールを使 い、簡易の凧を制作し、星を描き、飛ばして遊び 、星に親しむ活動を楽しんだ。	
福島県赤十字献血 センター	造形ワークショ ップ「オリジナル 傘を描こう」	7/22、会津若松市アピタにて、献血サマーキャン ペーンの一環として、キッズコーナーにて造形 ワークショップ「オリジナル傘を描こう」を実施 した。透明傘に赤ペンで模様を描き、オリジナル 傘を作成した。		
会津若松市文化課、 NPO 法人あいの里	造形ワークショ ップ「fit fitter fittest」	9/26、会津若松市自立支援事業所あいの里にて、 造形ワークショップ「fit fitter fittest」を 実施した。風船の中に石膏を流し込み、立体手形 を作成する内容で、利用者の方々と共に造形活 動を行った。完成作品はあいづまちなかアート プロジェクトにて展示された。		

幼児教育 学科	会津若松市文化課	造形ワークショップ「fit fitter fittest」	9/28、会津若松市城西小学校放課後子ども教室の一環として造形ワークショップ「fit fitter fittest」を実施した。風船の中に石膏を流し込み、立体手形を作成する内容で、子ども達と共に造形活動を行った。完成作品はあいづまちなかアートプロジェクトにて展示された。	葉山亮三
	会津若松市文化課、スペース・アルテマイスター	アートプロジェクト「fit fitter fittest」	10/7-21にかけて、会津まちなかアートプロジェクトの一環として、スペース・アルテマイスターにてアートプロジェクト「fit fitter fittest」を実施した。これまでのワークショップに加え、7、8日に行ったワークショップで作成された石膏の立体手形、約500個を空間に展示した。	
	福島県会津自然の家	造形ワークショップ「木の枝で作るドーム型秘密基地」	10/14、河沼郡会津自然の家にて開催された、あったかふれあいまつりにて、小学生を対象に造形ワークショップ「木の枝で作るドーム型秘密基地」を実施した。正二十面体、立方八面体をベースにした支柱に、木の枝を加え、葉で装飾し2つの基地を作成した。	
	社会福祉法人啓和会	造形ワークショップ「万華鏡づくり」	12/15、喜多方市駅前公益事業施設エーコードにて造形ワークショップ「万華鏡づくり」を実施した。子どもでも作成できるように、安全な材料としてミラーシートを用いて、簡易に制作できるようキット化し手軽に万華鏡づくりを行った。	
	福島県赤十字献血センター	造形ワークショップ「クリスマスカードづくり」	12/23、会津若松市アピタにて、献血クリスマスキャンペーンの一環として、キッズコーナーにて造形ワークショップ「クリスマスカードづくり」を実施した。色画用紙に飛び出す仕掛けを作成し、クリスマスに合わせてシールや色紙を加えて装飾した。	
	社会福祉法人啓和会	造形ワークショップ「おはなし会&すてきなぼうしやさん作り」	1/12、喜多方市駅前公益事業施設エーコードにて造形ワークショップ「おはなし会&すてきなぼうしやさん作り」を実施した。エプロンシアター、パネルシアターといった学生の自作教材を導入に活用し、ボールをベースにフェルトを貼り合わせたぼうし作りを行った。	
	福島県立博物館	造形ワークショップ「木ロボくんを作ろう！」	3/31、福島県立博物館にて、造形ワークショップ「木ロボくんを作ろう！」を実施した。地産の玩具メーカーマストロ・ジェppetと連携し、会津産の木片を用いて、表情の違いを活かしたロボット制作を行った。	
	会津若松市	会津若松市立図書館における未就学児対象の「読み聞かせ」研究事業	会津若松市立図書館において、月1回程度の読み聞かせ活動を実施している。本活動はゼミを通じた絵本学の研究成果に基づいた活動として実施している。2019年度からは月2回実施となる。	櫻井直輝

## 【卒業研究・ゼミ活動】

(50件)

学科	テーマ	概要	担当教員
産業情報 学科 (経営情報)	地域公共交通の研究	学生の卒業研究の一環として北会津地域等の地域内交通（デマンドバス等）について地域づくり委員会に参加、担当者に取材して調査研究し、地域の実態を知った。	石光真
	美術館の地域活性化の研究	学生の卒業研究の一環として、西会津町国際芸術村に取材し、地域活性化の実績を調査研究し、数値の結果を得た。	
	映画館による地域活性化の研究	学生の卒業研究の一環として、会津若松の映画館に関する調査を行いし、映画館が栄えた状況、なくなってきた経過、今後の展望について調査研究した。	
	『精神障害者雇用における企業と外部機関との連携』 (法令・条文に準拠し、該当学生は「障害」と表記することを示している)	法定雇用率の算定対象に精神障害者が加わった。精神障害者の職場定着には、企業と外部機関との連携ネットワークが重要との先行研究を踏まえ、会津若松市内における実態調査を、企業、行政、就労支援機関の協力を得て実施した。	平澤賢一
	福島県内の企業家実態調査	福島県内で新たな事業を展開する「kameron」「会津中央乳業」「まちづくり会津」「小澤蝸燭店」「キノコハウス」「fukuciel」「會津壺番館」「cocokara」「山田木綿」の主幸者に対してゼミ1年生がヒアリング調査を行い、「会津の起業家魂その5」として発行した。	青木孝弘
	会津若松市外部評価委員会の傍聴	「企業立地」「文化・芸術」「環境」「財政基盤」の4テーマで協議された平成30年度と同委員会をゼミ1年生2名が傍聴し、各テーマの施策と評価について学習した。	
	中小企業、ソーシャルビジネスの研究	ゼミ2年生4名が各自設定した研究テーマについて、文献調査や県内企業等へのアンケート、インタビュー調査等を行い考察した。 1「外国人雇用の実態と効果—都市圏と地方の比較—」 2「東日本大震災の復興過程における連携支援」 3「道の駅における住民参加の実態と業績の関係」 4「女性起業に影響を及ぼす要因」	
	ひらめきチャレンジ塾への参画	会津若松市協働・男女参画室が主催する同講座にゼミ1年生2名が参加し、ロジックモデルを活用した課題解決について、ファシリテーションを行った。	
棚田オーナー制への参加	会津地域5地区で実施されている棚田オーナー制において、とりわけ田植えと稲刈りへの参加を通じて、主催者や参加者との交流を深めるとともに、商業にとって重要な米をはじめとした農産物を生産することの困難さ、楽しさを体験した。		
産業情報 学科 (デザイン情報)	うるし・その可能性と未来展（あいづまちなかアートプロジェクト）	漆を学ぶ大学と連携し、会津若松市内の蔵やギャラリーにて開催された展覧会において、作品の開梱、記録、展示補助作業を通し、作品展示のプロセスを学びながら地域イベントとの関わりを深く持った。	井波純
	真夏の漆塾（あいづまちなかアートプロジェクト）	会津の木地師文化と会津漆器の伝統や技術を学ぶ短期滞在セミナーを開催し、本学のほか京都市立芸術大学、富山大学、金沢美術工芸大学、広島市立大学、東北芸術工科大学など、約50名の大学生が参加し、ホスト大学として交流を深めた。	

	旭三寄を記録し残す -会津美里町旭三寄の景観 を後世に残すツールデザ インの研究-	会津美里町旭三寄地区の景観を後世に伝えるための手法として、 実測によるエレベーションと模型を作成し、そこに住人の記憶を 留める記載の導入を行った。	柴崎恭秀	
	みんなで見守る復興住宅 -集住型復興住宅研究とコ ミュニティ誘発デザイン 提案-	福島県で完成した復興住宅の調査を行い、コミュニティ形成の観 点でデザイン提案の研究を行った。		
	アール・ブリュットと日常 がつながる場の提案-アール ・ブリュット調査研究と 空間デザイン検討-	日本では知的障害者によるアート活動をアール・ブリュットとし て位置付けているが、その現状を調査し、郡山市の福祉施設、ひと りの作家を抽出して制作の場、発表の場のデザイン提案を行った。		
	伊勢から会津へ・会津染型 の継承と活用研究	喜多方市で3万点以上の会津型と呼ばれる染型が見つかっており、 その歴史的な背景や東北地方で流行した経緯、また、それを現代の インテリア空間に活用する研究を行った。		
	記憶をつなぐ-東日本大震 災アーカイブ施設と慰霊 の場の研究調査及び提案-	福島県をはじめとする東日本大震災被災地で計画や建設が進む震 災の記憶を留めるアーカイブの調査研究を行い、移動式のデザイ ン提案を行った。		
	金山町におけるシーケン スデザイン提案-宮崎八 景を活用したシーケン スデザイン提案-	福島県大沼郡金山町のビューポイントを調査し、その要素をシー クエンス形成に繋がるためのデザイン提案を行った。最終的には 宮崎八景に着目し、八景をリデザインして結ぶデザイン提案を、CG アニメーションを活用して行った。		
	首都圏の大学生との奥会 津視察及び合同合宿	首都圏の大学生（拓殖大学・大月短大・専修大学）と会津大学 生、ゼミ学生5名の約40名と一緒に奥会津地方やJR只見線を 現地視察した。そして、12月に東京でシンポジウムを開催し、 奥会津地方及び只見線の利活用について学生視点から地域へ 提言している。 また、学生達はよしもと芸人「笑い飯 哲夫」とも地域連携活 動をおこなった。 <b>【2018年度会津大学競争的研究費採択事業】</b>		高橋延昌
	空き家を利用した交流施 設「つどの場このかぜ」ロ ゴマークデザイン	金山町小栗山にオープンした空き家を利用した交流施設「つど いの場このかぜ」について、調査した結果をふまえ、ロゴマー クデザインをゼミ学生が提案し、採用された。		
	Dr. ノグチ健康フェスタ のフライヤーデザイン	野口英世青春通り協議会からの依頼で、8月4日開催「Dr. ノグ チ健康フェスタ」のイベント告知フライヤーをゼミ学生がデザ インした。		
	野口英世PRデザイン	猪苗代町にある野口英世記念館と連携し、偉人・野口英世の新 たなPRデザインを提案。最終成果は2019年2月発表。		
スマートフォンのアクセ サリーデザイン	通信販売機器会社（本社は会津若松市内）との共同開発で、ス martフォンのアクセサリーをゼミ学生がデザイン。最終成果 は2019年2月発表。			
グラフィックデザイン作 品展 2018	グラフィックデザイン作品展 2018 は、学生の企画・運営によ り、8月25～28日に会津若松市生涯学習総合センターでゼミ学 生（高橋ゼミと北本ゼミ）がグラフィックデザイン作品展を開 催した。テーマは「パレット」とし、地域に向けて日頃のデザ イン成果を発表した。来場者数は約250名。			
地産地消キャラクター予 備審査	10月1日、会津若松市農政課より依頼され、地産地消キャラ クターの予備審査をゼミ学生1年生5名が行った。			

産業情報 学科 (デザイン情報)	定期発行誌の表紙イラスト (計 12 回)	地元ミニコミ誌より依頼され、定期発行誌の表紙イラストをゼミ学生が担当した。2018 年度は計 12 か月分を実施 (2018 年 4 月から 2019 年 3 月まで)。	高橋延昌
	あいづまちなかアートプロジェクトのデジタルコンテンツ制作	あいづまちなかアートプロジェクトを取材して、主にスマートフォンで閲覧するためのコンテンツを制作した。コンテンツは展示作品や全周囲 (360 度) 画像、漆芸作品の創作活動をしている本学学生のインタビューや「真夏の漆塾」に関する動画などで構成されている。	横尾誠
	SEM を用いたオブジェクトのデジタル化とコンテンツの提案 - 県南地方を中心とした狛犬の 3D ギャラリー -	SEM の技術を使って特徴的で珍しい形状をしている福島県、県南地方の狛犬彫刻物をデジタルアーカイブスとして保存し、画像や動画に代わる情報を Web 上で公開できるようにした。	
	いわなの里のグラフィックツール	只見町にある「いわなの里」のロゴ・ポスター・パンフレットなどのグラフィックツールを制作。	北本雅久
	会津みそを普及させるグラフィックデザイン	会津味噌協同組合に加盟する味噌醸造店ごとの商品ラベルや、会津みその知名度向上を図るポスターとパンフレットを提案。	
	加勢鳥の継承を図るデザイン	山形県上山市の奇習「加勢鳥」の継承を図るためのポスター・のぼり・パンフレットなどを制作。	
	芦ノ牧グランドホテルを若年層に発信する広告	芦ノ牧温泉にある「芦ノ牧グランドホテル」の魅力を発信するポスターとパンフレットを提案。	
	奥会津博物館の集客力を高めるデザイン	南会津町にある「奥会津博物館」のロゴ・ポスター・子供向け学習ツールなどを提案。	
会津伝統野菜を守るためのポスター	会津地域で栽培されてきた「会津伝統野菜」の特徴を視覚的に伝えるポスターを制作。		
食物栄養 学科	会津地域農産物の機能性成分の探索	会津地域農産物に含まれている機能性成分、特に滋養強壮・体を温める成分の調査研究を行い、学生が地域で生産される農産物に対する興味をより広げる機会を得た。機能性成分を有効に使ったレシピを考案した。	左一八
	食育普及活動 健康長寿いきいき県民フェスティバル	10 月 8 日 (月)、ビッグパレットふくしまで開催された「健康長寿いきいき県民フェスティバル」において食育ブースを出展し、介護予防のために、減塩と野菜摂取増加の食育普及活動を行った。	鈴木秀子
	食育普及活動 チャレンジふくしま県民フェスタ	12 月 15 日 (土) ~ 16 日 (日) ユラックス熱海で開催された「チャレンジふくしま県民フェスタ」において食育ブースを出展し、参加者が食と健康の関心を喚起することを目的としてクイズラリー等を通じた食育普及活動を行った。	
	食育普及活動 いきいき健康づくりフォーラム in 白河	2019 年 2 月 24 日 (日) 白河文化交流館コミネスで開催された「いきいき健康づくりフォーラム in 白河」において食育ブースを出展し、糖尿病予防のための展示とクイズラリーを通じた食育普及活動を行った。	
	【再掲】 JR 只見線学習列車食育弁当の開発	JR 只見線学習列車食育弁当 (春・夏、秋・冬バージョンの 2 種) メニューを作成し、試食会等を通して関係者と協議の上、弁当業者に提案した。また、健康的で食育に活用できる弁当メニュー作成の要点を明らかにした。	
	【再掲】 チャレンジふくしま県民	学食・社員食堂・飲食店等の喫食者の健康意識の高揚を目的として、喫食者及び調理施設整備に対応したヘルシーメニューを	



食物栄養 学科	運動「大学と連携した広報PR事業」	提案した。提案したメニューは学食・社員食堂・飲食店等で提供した。	舟木乃里恵
	渋柿はなぜ甘くなるのか？	渋柿が甘くなる理由について、様々なアルコールを用いて渋抜きを行い、その差について研究を行った。また、渋の元となるタンニンの性質の変化や、渋を利用した会津漆器などについても研究を行い、その一環として柿渋を使った赤べこ制作を行った。	漆谷博志
	福島ふれあいの森苗木の保全活動	東日本大震災の津波などにより被災した福島の森林を保全し、元の豊かな生態系を育むための植樹活動ならびに保全活動を行うボランティア活動に、ゼミ活動の一環として参加した。	
	福島県産食材を使用した鍋レシピの検討	株式会社ヨークベニマルと協力し、本学学生が福島県産の食材を使用し、調理が簡単な鍋のメニュー開発を行った。3つのレシピを考案し、実際に店舗で試食、投票を行い、最も得票数が多かったレシピをカードにしてヨークベニマルの店舗で配布した。	加藤亮
幼児教育 学科	障がいのある方たちとの交流	10月28日 日本学体育館にて会津若松市ボランティア連絡協議会、余暇活動センターふらっと、会津若松市ボランティア学園とのコラボで第1回ボランティアフェスタを運営・実施。企画、準備、発表を行った。	市川和彦
	障がいのある方の学びを支援	会津若松市ボランティア学園のゼミナールを支援（11回）。11月3、4日の地産・地消祭りにて制作したパンを販売した。	
	自閉症スペクトラムをもった子どもも楽しめる遊具の作成	放課後児童デイセンターを利用している自閉症スペクトラムの子どもとのかかわりを通して手作りで楽しめる遊具「ころころマカス」を作成し実践した。	河原田潤
	「バンビくらぶ」への出演	会津若松中央保育所主催の子育て支援事業「バンビくらぶ」において、2018年12月19日（木）に2年生ゼミ生11名、1年生基礎ゼミ7名が企画・制作・出演して、地域の未就園児のご家族と親交を深めた。	
	保育実技実践	既存または自作の物語等に合わせたペープサートを作成し、保育所、子育て支援センター、幼稚園それぞれにおいて園児等の利用者を対象とした実践活動を受け入れ保育所、子育て支援センター、幼稚園の保育者の方々に協力をいただきながら実施した。	久保美由紀
	「活動実践報告書」の執筆	取り組んだメンバーがほぼ重複していたことから、一部2017年度後学期期間中の活動内容を含みつつ2018年度期間中に取り組んだ活動内容をまとめ、各自のふり返りを加えた「活動報告書」として冊子としてまとめた。	
	社会的養護に関する実践教育の実施	家庭養育の場から社会的養護の場へ移行する過程について、児童相談所や児童養護施設を見学し、県内の社会的養護の実情について理解を深めた。	鈴木勲
絵本学ゼミナール	幼児教育基礎演習II（櫻井）では、絵本学をテーマに主として読み聞かせを対象とした研究を行っている。この活動に会津学鳳高等学校の図書委員会有志が参加し、合同ゼミを実施した。初回ゼミでは10名程度の参加があり、その後も春休みに数名の参加があった。	櫻井直輝	

## 【地域プロジェクト演習】

(2件)

学科	テーマ	概要	担当 教員
産業情報 学科 (経営情報)	【再掲】 【会津若松市水道部】 会津水カフェフェスティバルの企画実施	会津若松市の水道事業に対する市民の意識向上を目的に、地域プロジェクト演習として取組んだ。渡部琢也先生、葉山亮三先生、水尾和雅先生との共同研究。	青木孝弘
食物栄養 学科	少子高齢化時代における地域の子育て支援について(2018 いきいきふれあい合宿事業参画)	少子高齢化に伴い、子ども同士の交流や地域との関わりの減少といった現状がある。そこで、学生とともに合宿事業期間中の親元を離れた子どもたちの生活及び学習支援を行ったり、施設見学をしたりすることを通して、地域との関わり方について学びを深めた。また、事後検討会を実施し、今後の少子高齢化時代における地域の子育て支援について検討した。	舟木乃里恵

## 【デザインコンペ】

(7件)

学科	テーマ	概要	担当 教員
産業情報 学科 (デザイン情報)	第72回福島県総合美術展覧会(県展)	一般および青少年の部にゼミ2年生が応募出品した。全員が入選を果たし、うち1名は青少年美術奨励賞を受賞した。	井波純
	ラジオ番組表表紙デザイン	株式会社エフエム会津からの依頼で本学学生対象に行われたデザインコンペ。学生がラジオ番組表表紙のデザインを制作し応募するもの。審査の結果、デザイン情報コース2年・及川里恵の作品が選ばれ、2018年度春・夏・秋・冬の表紙を担当した。 <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/04/post-18.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/04/post-18.html</a>	高橋延昌
	会津IT秋フォーラムのポスターデザイン	会津大学が主催する「会津IT秋フォーラム2018」のポスターデザインを短期大学部の学生に対しコンペ形式での応募を依頼された。審査の結果、デザイン情報コース1年・橘内菜奈の作品が選ばれた。 <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/10/it2018.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/10/it2018.html</a>	
	喜多方「たすかりマルシェ」ロゴマークデザイン	喜多方市の荒川産業グループから、循環型地域サービス「たすかりマルシェ」のロゴマークのデザインをコンペ形式での応募を依頼された。審査の結果、デザイン情報コース2年・宮原亜由香および八巻彩の作品が選ばれた。 <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/10/post-19.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/10/post-19.html</a>	
末廣酒造頒布会日本酒ラベルデザイン	末廣酒造株式会社から、本学学生対象に行われたデザインコンペ。銘酒頒布会用日本酒ラベルデザインを学生が制作し応募するもの。審査の結果、デザイン情報コース学生6名(渡部茜・阿部未夢・水野杏香・高橋花乃・石山蓮・小松田久遠)の作品がデザイン採用となった。ラベル採用された日本酒は2019年1月から販売。 <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/12/post-20.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2018/12/post-20.html</a>		

産業情報 学科 (デザイン情報)	会津若松市「あいづ 3010 運動」ロゴマークデザイン	会津若松市食育ネットワークから、食品ロスを無くす「あいづ 3010 運動」ロゴマークをコンペ形式での応募を依頼された。審査の結果、デザイン情報コース1年・佐藤菜々の作品が選ばれた。 <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2019/02/3010.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/design/blog/2019/02/3010.html</a>	高橋延昌
	芦ノ牧温泉「お土産手提げ袋」デザイン	芦ノ牧温泉某社から、「お土産用手提げ袋」デザインをコンペ形式での応募を依頼された。結果は2019年夏に発表予定。	

【ボランティア活動】

(10件)

担当教員	テーマ	概要	担当教員
産業情報 学科 (経営情報)	ジュニア・エコノミー・カレッジ	会津若松商工会議所青年部会が主催する同事業に、ゼミ1年生2名が協力スタッフとして3日間参加し、小学生に対する起業教育の支援活動を行った。	青木孝弘
	国際交流フェスティバル	会津若松市国際交流協会が主催する同事業に、ゼミ1年生1名が協力スタッフとして参加し、外国人と市民との交流を支援した。	
	南会津町中小屋集落支援	昨年度の地域プロジェクト演習で係わった同地域を継続的に支援するために、ゼミ2年生2名が会津大学学祭において、同地域の野菜の販売に協力した。	
食物栄養 学科	ドクトル野口健康まつり	8月4日(土)、野口英世青春広場で開催された健康商店街プロジェクト「ドクトル野口健康祭」にブース出展し、食育普及活動を行った。	鈴木秀子 舟木乃里恵
	ロータス保育園食育	8月24日(金)、会津若松市のロータス保育園で、「野菜に触れる」「よく噛んで食べよう」をテーマにした食育活動を行った。	
	会津若松市健康まつり	9月30日(日)、会津若松市文化センターで開催された会津若松市健康祭にブース出展し、食育普及活動を行った。	
	食品衛生月間親子料理教室	福島県会津保健福祉事務所主催の平成30年度食品衛生月間事業、親子料理教室へ調理補助のボランティアスタッフとして学生4名を募り参加した。手洗い指導の後、調理、試食を実施した。	漆谷博志 舟木乃里恵 阿部桂子
幼児教育 学科	ダンスビック・ワークショップ	若松市内の障害児支援施設(1か所)、放課後デイサービス(2か所)で利用者・児とのダンスワークショップを行った。	市川和彦
	障害者支援施設での音楽活動	田村にある障害者支援施設「あぶくま厚生園」を学生と訪問し利用者さんとともに歌い踊る活動を通して交流を行った。	
	あさがおプロジェクト	大熊町社会福祉協議会の職員、大熊町民ボランティアの方々と一緒にあさがおとひまわりの種を構内の一角にまき、育てる活動を通じた交流事業を行った。花が終わった後には、種を収穫し次年度への継続的活動につなぐとともに、希望する職員等へ種を渡すことによる空間的拡大への取り組みも試みた。	久保美由紀

## 【復興支援のための活動】

(5件)

学科	テーマ	概要	担当 教員
食物栄養 学科	【再掲】 福島ふれあいの森苗木の 保全活動	東日本大震災の津波などにより被災した福島の森林を保全し、 元の豊かな生態系を育むための植樹活動ならびに保全活動を行 うボランティア活動に、ゼミ活動の一環として参加した。	漆谷博志
幼児教育 学科	双葉町社会福祉協議会に おける生活支援相談員の 支援力向上にむけた取り 組み	双葉町社会福祉協議会に所属する生活支援相談員の支援活動の 質の向上を目的に継続した研修等を実施した。(2013年から継 続し現在に至る)	木村淳也
	葛尾村社会福祉協議会に おける生活支援相談員の 支援力向上にむけた取り 組み	葛尾村社会福祉協議会に所属する生活支援相談員の支援活動の質 の向上を目的に研修等を実施した。	
	富岡町社会福祉協議会に おける生活支援相談員の 支援力向上にむけた取り 組み	富岡町社会福祉協議会に所属する生活支援相談員の支援活動の質 の向上を目的に研修等を実施した。	
	【再掲】 あさがおプロジェクト	大熊町社会福祉協議会の職員、大熊町民ボランティアの方々と 一緒にあさがおとひまわりの種を構内の一角にまき、育てる活 動を通じた交流事業を行った。花が終わった後には、種を収穫 し次年度への継続的活動につなぐとともに、希望する職員等へ 種を渡すことによる空間的拡大への取り組みも試みた。	久保美由紀

## 【その他】

(1件)

学科	テーマ	概要	担当 教員
産業情報 学科 (デザイン情報)	ふくしま産業賞「学生銀 賞」	ふくしま産業賞(学生部門)は、県内の大学、高専、短大、高 校、専門学校等を対象に、地域資源の活用、震災・津波・原発事 故からの復興への貢献、地元企業・住民との連携、他地域との 交流促進などを総合的に判断して表彰するもの。第三者による 厳正な審査の結果、高橋ゼミは第2位「銀賞」(県内大学生の ゼミ活動としては最上位)に選出された。表彰式は2019年2月 8日に開催。	高橋延昌